

正門

琉球王国の時代、識名園の瓦屋根の正門は、王族が通る時と中国からの使節を式典に案内する時のみ使われました。門は屋門(ヤージョウ)と呼ばれる地位の高い家族の住宅に見られる様式です。丈夫なイヌマキの木で精巧に建造された本体部分は、四本の支柱が巧みに加工された琉球石灰岩の壁に組み込まれています。屋根は白い漆喰で装飾された赤い琉球瓦です。従僕は、高貴な来訪者を運ぶ駕籠の前を走っていき、適切な尊厳をもって客人を迎えるべく開門の命令を叫んだとされています。